

5. 科研費トピックス

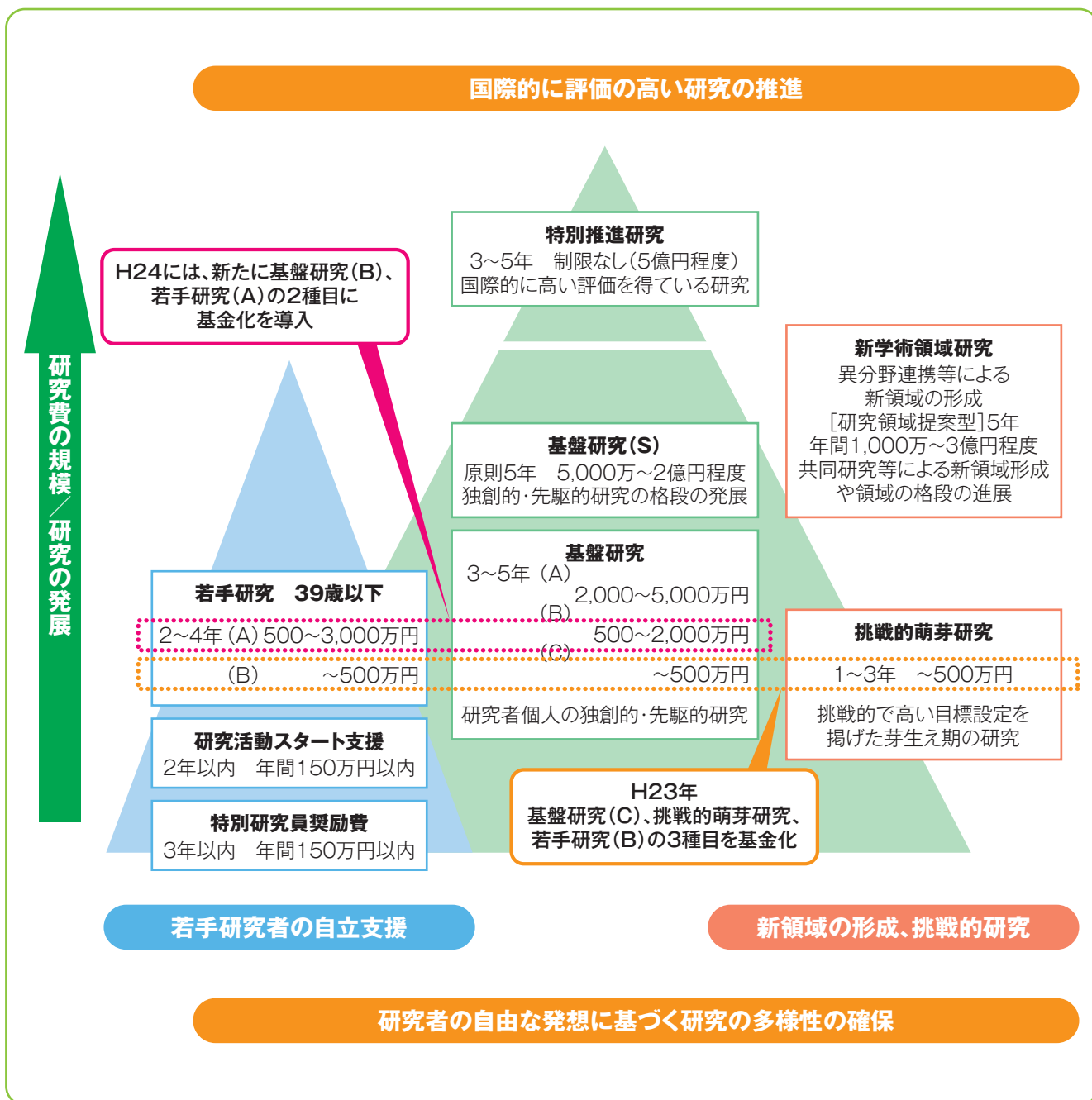
科学研究費助成事業 平成24年度予算案の説明

◆研究費の複数年度にわたる使用を可能にする改革の推進により、
限られた研究費から最大限の研究成果を創出

H24予算案:2,566億円(※)
H24助成額:2,307億円

平成23年度に複数年度研究費の改革(基金化)を行った「基盤研究(C)」、「挑戦的萌芽研究」及び「若手研究(B)」に加え、平成24年度には、新たに「基盤研究(B)」及び「若手研究(A)」についても新規採択分について基金化を導入しました。これにより、基金対象種目は5種目に拡大し、新規採択の9割近くを占めることになります。

注:平成23年度新規募集研究種目



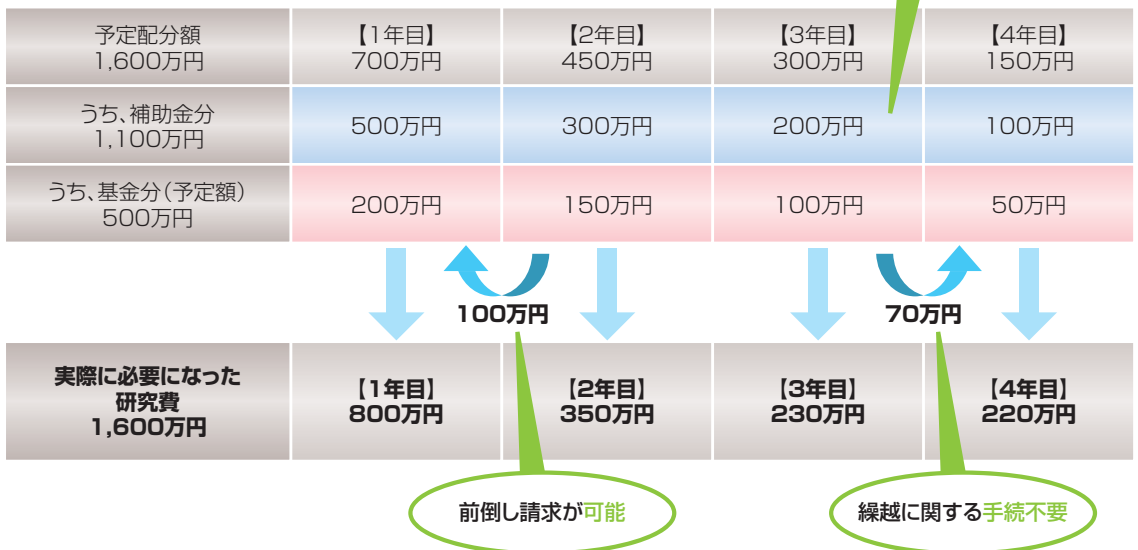
※平成23年度から一部種目について基金化を導入したことにより、予算額(基金分)には、翌年度以降に使用する研究費が含まれることとなったため、予算額が当該年度の助成額を表さなくなったことから、予算額と助成額を並記しています。

新たに導入する「基盤研究(B)」及び「若手研究(A)」については、1研究課題毎に、研究費総額のうち500万円を基金、500万円を超える分については補助金で措置することになります。(これにより基金分が1研究課題当たり3割から4割程度を占める見込であり、その範囲内において、研究費の前倒し使用や、繰越手続を要することなく翌年度の使用が可能となります。)

「一部基金化」による研究費のイメージ

※4年間総額1,600万円の研究課題の研究費イメージ

「基金分の範囲内」で研究費の柔軟な使用が可能に



◆既存予算を見直し、次世代を支える若手の支援、研究フロンティアの開拓を推進

- 新たな研究のフロンティアを切り開く「新学術領域研究」を拡充します。
- 優れた研究能力を有する若手研究人材(JSPS特別研究員)への研究費(「特別研究員奨励費」)を充実します。

「我が国における学術研究課題の最前線(平成23年度)」を公開

日本学術振興会及び文部科学省において審査を行った研究種目のうち、比較的研究費の規模が大きく特に高い評価を得ている研究を支援する「特別推進研究」、「基盤研究(S)」や研究者グループによる研究フロンティアの開拓を目指す「新学術領域研究(研究領域提案型)」の新規採択研究課題の研究概要等を取りまとめた資料を公開しております。

以下より、ダウンロード可能となっておりますので、ご活用ください。

〈和文〉http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/30_front/23_wabun.html

〈英文〉http://www.jsps.go.jp/english/e-grants/grants12_2011.html

